

市長の伊賀じまん



一 四方を囲める山々

伊賀は周りを山に囲まれています。自信を持ってこれらの山の名前を言える人は意外と少ないのではないのでしょうか。山にはそれぞれに特徴があり、歴史や信仰に関係するなど私たちの暮らしにも深いつながりがあります。

例えば、北には高くそびえる高旗山があり、新居地区では元日に登山をする山として親しまれています。伊賀からは険しく見えますが、登ると滋賀県側はなだらかな山です。これは、木津川断層帯によるずれが原因で、その形状から伊賀盆地の成り立ちを見ることができます。



▲伊賀地域をとりまく山々

名前の由来は、江戸中期から明治にかけて山頂から大阪の米相場を手旗信号で伊賀に伝えたことからきているそうです。

そして、東には信仰の山である霊山があります。織田信長の伊賀攻めで寺院は焼失したそうですが、かつての信仰の様子

▶高旗山からの風景

がうかがえる経塚きょうづかがその名残をとどめています。

また、西には、同じく信仰の山である神野山こうのやまがあり、さらに南を見ると、大洞山や「伊賀富士」と呼ばれる尼ヶ岳おおほらやまがあります。ほかに、鎧岳、兜岳、俱留尊山など、ハイキングや登山で人気の山々が並びます。また、近くには笠取山を含む布引山地が横たわり、風力発電の地域として有名です。このように、周囲を見渡すとさまざまな山やそれに関わる話があります。

柴しばを刈って燃料にしたり、多くのマツタケが収穫できたことは今や昔のことですが、その頃は山が豊かで手入れも行き届き、猿や鹿が今ほど山からおりてくることはありませんでした。獣害などが起こり始めたのは、山をなおざりにした付けがきたのかもしれない。

若い頃は、山に囲まれた環境から外に出たいと考えていましたが、外に出てみると伊賀の良さを実感することが多くありました。私たちの生活を守り、文化を育ててくれた山々のことをもう一度考えてみてはいかがでしょうか。さて、あなたはいくつ山の名前を知っていますか。
(市長 岡本 栄)

防災ねっと

生きて救出されたのに助からなかった!?

◆災害時、「クラッシュ症候群」による急変が発生

21年前の阪神・淡路大震災のとき、倒壊した建物の中から助け出された人が、大きなけがもしていないのに、数時間後、急な体調の変化により亡くなってしまふことが多く起こりました。

これは体が、がれきなどの重い物に長時間挟まれ、そこから開放されたときに起こる「クラッシュ（挫滅）症候群」と呼ばれる症状が原因でした。重い物に体が挟まれ、長時間にわたって筋肉が圧迫されると、血流の障害で筋肉の組織が破壊され、その周辺に毒性の高い物質が蓄積されます。この物質が、体の圧迫の開放とともに血流を通じて全身に広がり、主に心臓や腎臓に致命的な影響を及ぼすのです。

◆治療の遅れが命とり

また、クラッシュ症候群は、助け出された直後、一見してわかるような症状が出ない場合が多く、重症でもわかりにくいのが特徴で、一刻も早く専門的な治療を受ける必要があります。災害現場や専門病院で治療を受ければ助かる可能性は高くなりますが、大災害の



発生時には医療をすぐに受けることができない状況も考えられます。

◆普段からの備えが命を守る

大切なことは、そうならないために普段から備えておくことです。つまり、建物の耐震補強をしておくこと、家具などの転倒防止をしておくことです。

近い将来必ず起こるといわれている南海トラフ地震では、市内の約9割の地域で震度6弱以上の揺れが発生して、最大で1,900棟の建物が全壊し、最大で600人が倒壊した建物から自力で脱出できないと想定されています。

防災・減災の取り組みで大切なことは、「まず自分や家族の命を守ること」です。

私たちが普段からやっておくべきことを、もう一度考えてみませんか。

【問い合わせ】

総合危機管理課

☎ 22-9640 FAX 24-0444

春の全国交通安全運動

『4月10日(日)は交通事故死ゼロを目指す日』

【運動期間】

4月6日(水)～15日(金)

【運動の基本】

子供と高齢者の
交通事故防止



【運動の重点】

- 自転車の安全利用の推進（特に自転車安全利用五則の周知徹底）
- 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 飲酒運転の根絶

【問い合わせ】

市民生活課
☎ 22-9638 FAX 22-9641

伊賀線だより



伊賀線開業100周年記念「伊賀線まつり」



▲伊賀線開業100周年の
ロゴマーク

伊賀鉄道伊賀線を地域で愛される鉄道にしていくため、毎年恒例の伊賀線まつりが開催されます。

普段は入ることができない上野市車庫で、次の催しが予定されています。あまり伊賀鉄道に乗ったことがないという人も、この機会にぜひ一度、伊賀鉄道を体感してみてください。

【とき】 5月3日(火祝) 午前10時～午後4時

【ところ】 伊賀鉄道上野市車庫（上野市駅下車すぐ）

【内容】 軌道自転車の乗車体験、200系車両撮影会、車掌体験、伊賀線ジオラマ・鉄道模型コーナー、鉄道グッズの展示・販売（伊賀鉄道・近鉄など）・キャラクターとふれあおうなど ※予約制の催しあり
※内容は変更される場合があります。

【問い合わせ】

交通政策課 ☎ 22-9663 FAX 22-9852
伊賀鉄道(株)総務企画課 ☎ 21-0863

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

「言葉」の持つ力 — 島ヶ原支所振興課 —

■このコラムは毎回いろいろなテーマで人権についてお話しています。

伊賀市では今なお、多くの差別事象が発生しています。これは、人権が尊重される社会をつくろうと努力してきた先人の思いを考えると大変残念なことです。

島ヶ原地区でも、人権講演会などを実施して人権啓発活動に取り組んでいますが、根本的な解決にはまだ時間がかかりそうです。

差別事象のほとんどは言葉によるもので、そのような差別発言によって大変な痛みを感じている人たちがいます。差別的な言動をしてしまう人、あるいは関心を持たない人に共通してあてはまることは、その人の痛みを想像できないこと、また、自らに置き換えて考えられないことではないでしょうか。

言葉とは人と人の間に思いを伝えるものであり、人に生きる力を与え、また人生をも変える力があります。大切な人からの言葉を胸に刻み、それを

宝物にしている人も多いでしょう。

しかし、ときに言葉は人の心を深く傷つける凶器にもなります。その危険性をつい忘れて軽々しく扱ってしまうことで、さまざまな人権侵害問題が引き起こされるのではないのでしょうか。

私たちも、人権講演会に参加した人の「人権の大切さにあらためて気付きました。」という言葉が、これからさらに人権啓発に力を入れていこうという原動力になっています。その一方で、何気なく使われた言葉が多くの人を苦しめる差別発言になってしまったケースを見てきました。こうした経験から、言葉の持つ力を正しく知ることは、それを使う人間の可能性を広げることだと、改めて実感するようになりました。

人間が持つ可能性には、あらゆる差別のない社会を創りあげていくことができる力が秘められていると思います。

■ご意見などは人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286 FAX 47-1288 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ